

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践 ワーカー会議の中で理念の一つ一つ取り上げ、ケアの振り返りの機会を持ち浸透を図ることを継続する	理念に基づいた理念の実践の継続	・理念に基づいた理念の実践が継続できるように、ワーカー会議で理念の事について取り上げ、振り返りの機会を持ち浸透を図る	12ヶ月
2	6	身体拘束をしないケアの実践 日常のケアの実践の中で言葉による拘束がないか振り返りの機会を持ち周知徹底を図る	日常のケアの実践の中で、どのようなことが、言葉による拘束かを学び、話し合う環境を作り拘束をしないケアを実践する	・身体拘束について勉強会を実施し職員の知識の共有を図り実践する	12ヶ月
3	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映 家族の訪問時の何気ない言葉や態度、表情から利用者・家族の意見や要望を感じ取り、運営に反映させる	意見や要望を言いやすい雰囲気作りを行う	・家族の来訪時、職員より挨拶や言葉掛けを行い家族の何気ない言葉や会話から意見や要望を聴取出来るようにする ・接遇について勉強会を実施し知識を得る	12ヶ月
4	23	思いや意向の把握 利用者が生活する中で変化する思いや意向・希望を一部の意見や考えで決めつけず、利用者の立場、視点に立って話し合いながら把握していく取り組みを継続する	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努める	・日常的に関われるよう、会話できるよう時間を設ける ・日々の状態の変化、家族からの聞き取り、関わりの中から出てきた言動等、ワーカー会議、申し送り等で共有し利用者の意向・希望の把握に努める	12ヶ月
5	26	チームでつくる介護計画とモニタリング 計画に沿って実施された支援・観察の経過記録の記載内容が少ない。計画を見直す前に利用者や家族とケースカンファレンスが実施が出来ていない	・計画に沿って実施された記録の充実 ・計画書、修正見直し前に利用者、家族とケースカンファレンスを実施し計画に反映させる	・各々の利用者に対して1日1つは計画に沿って実施された支援・観察の経過記録を記載する ・計画書を修正・見直しする前の月に利用者、家族とケースカンファレンスを実施する	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。